

式 辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、今日まで温かく見守り続けてこられた保護者の皆様、そしてご家族の皆様に、学校を代表しまして、心からお祝い申し上げます。

本日第五十一回となる卒業式に、衆議院議員の葉梨康弘様をはじめ多数のご来賓方々、並びに愛国学園理事長の織田奈美様をはじめ、学園本部から多くの先生方のご臨席を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

卒業は新しい人生の始まりです。皆さんの新しい第一歩が桜の園であるこの学園から始まることを教職員一同心からお祝いします。

今年の四月に校長として着任した私に、校訓の「親切正直」を身をもつて教えてくれたのは、三年生の行動でした。学校行事や授業参観のときに、周りの人を労り、相手の立場になって行動できる生徒が三年生に多くいることに気づきました。その姿はごく当たり前のようで、とても自然で、いつもの行動に見えたことがとても印象的でした。

教室の正面に掲げられている校訓は学園での生活ばかりでなく、これからの長い人生の道しるべとして、いつまでも皆さんの心の中に生き続けていくことでしょう。

今年の九月からは毎朝、「生活自戒」を復唱してきました。

「生活自戒」も教室の正面右に掲げられています。その六項目は、時間を守ることや挨拶や礼儀などの、コミュニケーションスキルを身につけることの大切さ、そして、女性としての品性のある言葉遣いや起居動作についての心構えなどを示したもので、卒業後も重要な指針になるものだと思います。

高校時代はその人の基礎となる「根っこ」を育てることにあると私は思っています。入学当時の皆さんは、まだ短い幹で、細い枝やわずかばかりの小さな葉っぱしかつけていなかった若木でした。その若木が大空に向かって枝を伸ばしていくためには、成長を促す十分な栄養を蓄えた土壌がなくてはなりません。しっかりと豊かな土の中に根っこを張り、世界に一つだけの「自分」という種の木」を育てていける力を身につけることが高校の三年間なのです。

皆さんは自分の根っこをこの愛国学園で豊かに育て、自分という木を成長させてきました。これから皆さんがどんな木になつていくのかとても楽しみです。私は愛国学園という土壌をより豊かにし、生徒の根っこがしっかりと育つ教育環境を作つていきます。

皆さんは初めてなでしこ祭で、書道パフォーマンスをした学年です。選んだ漢字一文字は「繫」でした。パフォーマンスをした三年生八名のリーダーである高野杏さんは、「長く続くようにする。絶えぬようにする」という意味で「繫」を選びました。本

校の良き伝統文化が先輩から後輩へ、先生から生徒に、引き継がれ、本校で結んだ同窓の絆が、これからも長く続いていくことを強く望んでいます。

そのなでしこ祭のテーマは「ベストメモリー」大切な思い出でした。このテーマを決めたのは自治委員会ですが、私はその決定プロセスに立ち会いました。なぜこのテーマなのか、そのときの私はあまり深く考えていませんでした。しかし、私にははつきりとその理由がわかりました。卒業の時に、自分の高校生活の3年間がベストメモリーといえることはとても素晴らしいことです。ベストとはいえなくとも大切な思い出として心の奥に残ることは、卒業する学校を誇りに思うことであり、将来への大きな自信に繋がることだと思えます。

この学園での3年間を大切な思い出として心に残したいと思つた皆さんを、今、私は誇りに思います。

最後になりますが、私は機会あるごとに、本校を生徒一人一人にとつて、「いつでも 誰でも 主人公」の学校にしたいと言いつつ続けてきました。いろいろな場面で、自分は主人公であるという実感を持つてもらいたいと思つたからです。

今日まで、愛国学園の主人公であった皆さんが、明日からは、それぞれの世界で、いつでも主人公になって活躍することを心から祈つて、私の式辞とします。

平成三十年三月五日

愛国学園大学附属龍ヶ崎高等学校長 倉持正男